

# 令和元年度 (2019 年度)

## 事業報告書

自 平成 31 年 4 月 1 日

至 令和 2 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

# 令和元年度 事業報告

## I. [事業の状況]

### 1. 国際映画祭事業

- 名 称： 第32回東京国際映画祭
- 主 催： 公益財団法人ユニジャパン  
(第32回東京国際映画祭実行委員会)
- 共 催： 経済産業省 (TIFF プラス)  
国際交流基金アジアセンター (アジア映画交流事業)  
東京都 (コンペティション部門、ユース部門)
- 期 間： 令和元年10月28日 (月) ~ 令和元年11月5日 (火)
- 企 画： コンペティション、アジアの未来、日本映画スプラッシュ、特別招待作品、  
特別上映、ワールド・フォーカス、JAPAN NOW、CROSSCUT ASIA #06 ファンタ  
スティック! 東南アジア、日本映画クラシックス、ユース、TIFF プラス (ジャ  
パニーズ・アニメーション)、復活! ? 東京国際ファンタスティック映画祭ナイ  
ト、STAR CHANNEL MOVIES セレクション、TIFF マスタークラス、TIFF 特別シン  
ポジウム、アメリカ議会図書館映画コレクション、NTT ドコモ特別企画 (TIFF  
プラス Tech) 第32回東京国際映画祭 Virtual x Real x Tech ライブ~featuring  
直感 x アルゴリズム♪~、東京国際映画祭 x 11月3日はビデオの日 屋外上映  
会 2019、みなと上映会、Japan Content Showcase2019、第16回文化庁映画週  
間 他
- 会 場： 六本木ヒルズ、EXシアター六本木 (以上、港区)、東京ミッドタウン日比谷 日  
比谷ステップ広場、東京国際フォーラムホール C をメイン会場とし、その他都  
内劇場及び施設・ホールを使用
- 後 援： 総務省 / 外務省 / 観光庁 / 港区 / (独) 日本貿易振興機構 / 国立映画アーカイブ  
 / (公財) 港区スポーツふれあい文化健康財団 / (一社) 日本経済団体連合会 /  
 東京商工会議所 / (一社) 日本映画製作者連盟 / (一社) 映画産業団体連合会 /  
 (一社) 外国映画輸入配給協会 / モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA) /  
 全国興行生活衛生同業組合連合会 / 東京都興行生活衛生同業組合 /  
 NPO 法人映像産業振興機構 / (一社) 日本映像ソフト協会 / (一財) 角川文化振興  
 財団 / (一財) デジタルコンテンツ協会 / (一社) デジタルメディア協会
- 支 援： 文化庁
- オフィシャル パートナー：  
木下グループ / 日本コカ・コーラ株式会社 / アメリカン航空
- プレミアム スポンサー：  
大和証券株式会社 / 株式会社スター・チャンネル / 三井不動産株式会社 / 一般

社団法人日比谷エリアマネジメント／株式会社アニプレックス／株式会社 NTT  
ドコモ

スポンサー： 株式会社 WOWOW／ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社  
／ソニーPCL 株式会社

コーポレートパートナー：

松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA／日活株式  
会社／森ビル株式会社／TOHO シネマズ株式会社／一般社団法人映画演劇文化  
協会

メディアパートナー：

株式会社 J-WAVE／株式会社 InterFM897／日本映画専門チャンネル／松竹ブロ  
ードキャスティング株式会社／株式会社ジャパンタイムズ／ウォール・ストリ  
ート・ジャーナル／ヤフー株式会社／株式会社 GYAO／LINE 株式会社／株式会  
社 つみき／株式会社ムービーウォーカー

フェスティバルサポーター：

株式会社 IMAGICA Lab. /株式会社 TSUTAYA／セイコーホールディングス株式会  
社／JR 西日本／人気酒造株式会社／テレビ朝日／株式会社クララオンライン  
／株式会社レントシーバー／ゲッティ イメージズ ジャパン株式会社／ビー・  
エム・ダブリュー株式会社

## 【開催概要】

第32回東京国際映画祭は、令和元年10月28日(月)から11月5日(火)まで9日間、六本木ヒルズ、及び、EXシアター六本木をメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。

新たに、安藤裕康チェアマンを迎え、久松猛朗フェスティバルディレクターとの強力タッグにより取り組んだ本年度の映画祭は、引き続き一定レベルの委託事業予算を確保できたため、祝祭感の醸成、認知度・知名度の更なる向上、上映部門数・上映本数増による鑑賞機会の拡大、動員数の増を図った。具体的には、昨年に引き続き、六本木ヒルズとEXシアター六本木を活用、映画祭全体のコンパクトで効果的な運営を狙った。上映部門としては、従来の部門をきちんと押さえつつ、日本映画を代表する作品を海外に紹介する「JAPAN NOW」では、日本映画界のレジェンドである大林宣彦監督の特集を行い、また6年目を迎える国際交流基金アジアセンターとの共催企画として「CROSSCUT ASIA #06 ファンタスティック！東南アジア」を実施、ジャパンアニメーション特集は今年からジャパニーズ・アニメーション部門に昇格、日本アニメ映画マスターズ、日本アニメ映画の到達点、ULTRAMAN AECHIVES「ウルトラQ」4K上映の3つの企画を実施、そのほか、数多くの企画を実施した。

また、新たな試みとして、NTTドコモ特別企画〈TIFF プラス Tech〉第32回東京国際映画祭 Virtual×Real×Tech ライブ～featuring 直感×アルゴリズム♪～、を実施。NTTドコモの5Gの技術を活用したバーチャルとリアルを掛け合わせた全く新しい取り組みで好評を得た。その他、東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場での屋外上映は今年も行ったが、昨年以上にお客様を集め、大盛況であった。それ以外にも、1年ぶりに国立映画アーカイブと組んで実施した「アメリカ議会図書館映画コレクション」や六本木ヒルズアリーナでの野外上映や、アニメ・VFX 作品のリア

ルイベント等を行い、より広い映画ファンへの映画祭の認知に努めた。そして、若い映画ファン、若い映画製作者の育成を目的としたユース部門では TIFF ティーンズ映画教室 2019 という 3 年目になる取組みも行き、映画祭を良い形で拡大する事が出来、評価も得た。

その結果、今映画祭の自主企画は 41 企画で、動員数は 213,383 人。前年対比は 90.2%と下がったが、1 日開催日数が少なかったので、1 日当たりで比較すると、昨年以上 (100.2%) となっている。上映作品数は 183 本。

オープニングセレモニーは、10 月 28 日 (月) にグランドハイアット東京グランドボールルームにて開催された。冒頭、和楽器演奏に続き、来賓の萩生田光一文部科学大臣、竹本直一内閣府特命担当大臣による祝辞をいただき、その後、来賓紹介、安藤チェアマンによる挨拶、久松フェスティバルディレクターによる開会宣言が行われた。そして、フェスティバル・ミュージズ広瀬アリスと司会の笠井信輔による映画祭企画概要の紹介を行った後、オープニング作品「男はつらいよ お帰り 寅さん」のゲストとして、山田洋次監督、倍賞千恵子、吉岡秀隆、後藤久美子、前田吟、夏木マリ、浅丘ルリ子という大変豪華な顔ぶれが登場し、大いに沸かせた。その後、各部門の作品紹介に続き、「アジアの未来」部門審査員、「日本映画スプラッシュ」部門審査員を紹介、最後にコンペティション部門国際審査委員の紹介と共に、代表して審査委員長のチャン・ツイー氏による抱負を述べていただき、盛沢山で華やかなセレモニーとなった。

その後、同会場内にて、オープニングパーティーが行なわれた。オープニング作品の上映はセレモニーに先駆けて TOHO シネマズ六本木ヒルズで行われた。

クロージングセレモニーは、11 月 5 日 (火) に東京国際フォーラムホール C で開催された。授賞式では、冒頭、今回初となる「アメリカン航空アワード」を発表、次に今年 3 年目になる「東京ジュストーン賞」を発表、ヨセフィン・フリーダ、伊藤沙莉、吉名莉瑠、佐久間由衣の 4 名が受賞した。その後、「日本映画スプラッシュ」部門、「アジアの未来」部門の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の東京グランプリは、フラレ・ピーダセン監督の『わたしの叔父さん』に、審査員特別賞はヴァレンチン・ヴァシャノヴィチ監督の『アトランティス』に、最優秀監督賞はサイド・ルスタイ監督 (『ジャスト 6.5』)、最優秀女優賞はナディア・テレスツイエンキーヴィッツ (『動物だけが知っている』)、最優秀男優賞はナヴィド・モハマドザデー (『ジャスト 6.5』)、最優秀芸術貢献賞は『チャクトゥとサルラ』(ワン・ルイ監督)、最優秀脚本賞は足立紳監督 (『喜劇 愛妻物語』)、観客賞は『動物だけが知っている』(ドミニク・モル監督) に、それぞれ贈られた。

また、「アジアの未来 作品賞」はヨウ・シン監督の『夏の夜の騎士』に、「アジアの未来 国際交流基金アジアセンター特別賞」はレザ・ジャマリ監督 (『死神の来ない村』) が選ばれた。「日本映画スプラッシュ 作品賞」は森達也監督の『! - 新聞記者ドキュメント - 』に、監督賞は渡辺紘文監督 (『叫び声』) に贈られた。その後、グランプリ作品『わたしの叔父さん』が上映された。同じ東京国際フォーラム内にてクロージングパーティーを開催、審査委員メンバー、各賞受賞者等、多数の方が参加され、好評のうちに終了した。

## 〔自主企画〕

### （１）コンペティション（共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2019年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た14作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名（日本人1名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京グランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞、脚本賞の7賞が決まり、11月5日のクロージングセレモニー会場で発表された。東京グランプリには3万米ドル、審査員特別賞には5千米ドル、その他の賞に3千米ドルが副賞として贈られた。東京グランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られた。

- ・東京グランプリ：『わたしの叔父さん』（監督：フラレ・ピーダセン）
- ・審査員特別賞：『アトランティス』（監督：ヴァレンチン・ヴァシヤノヴィチ）
- ・最優秀監督賞：サイード・ルスタイ監督（作品：『ジャスト6.5』）
- ・最優秀女優賞：ナディア・テレスツイエンキーヴィッツ（作品：『動物だけが知っている』）
- ・最優秀男優賞：ナヴィド・モハドザデー（作品：『ジャスト6.5』）
- ・最優秀芸術貢献賞：『チャクトゥとサルラ』（監督：ワン・ルイ）
- ・最優秀脚本賞：『喜劇 愛妻物語』（監督：足立紳）
- ・観客賞：『動物だけが知っている』（監督：ドミニク・モル監督）

上映作品数 14作品 動員数 15,084人

### （２）アジアの未来

アジア（日本、中東地域を含む）で作られた、新鋭監督の1本目から3本目までの長編作品を対象にした、フレッシュなコンペティション部門。かつてあった、「ヤングシネマ・コンペティション」部門の精神を復活させ、若い才能を東京から世界に発信していく。

「アジアの未来」部門で上映された作品の中から、審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万米ドルが贈られた。また、昨年に続き、今年も国際交流基金アジアセンターの支援のもと、「国際交流基金アジアセンター特別賞」が国際交流基金アジアセンター特別賞審査委員により1名が選ばれた。

- ・作品賞：『夏の夜の騎士』（監督：ヨウ・シン）
- ・国際交流基金アジアセンター特別賞：レザ・ジャマリ監督（『死神の来ない村』）

上映作品数 8作品 動員数 3,784人

### （３）日本映画スプラッシュ

旧来の「日本映画・ある視点」部門の精神を引き継ぎ、日本のインディペンデント映画を応援する部門。海外にしぶき（Splash!）を上げて飛び出して行けるような力のある作品、豊かな才

能を感じさせる監督たちを積極的に紹介。上映作品の中から、審査委員会により作品賞、及び、監督賞が選ばれた。

作品賞：『i - 新聞記者ドキュメント - 』（監督：森達也監督）

監督賞：渡辺紘文監督（『叫び声』）

上映作品数 9 作品 動員数 2,516 人

#### （４）特別招待作品

国内未公開の主な話題作品を厳選し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映作品数 19 作品 動員数 8,728 人

#### （５）特別上映

国内未公開の話題作品を選定、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映作品数 8 作品 動員数 2,188 人

#### （６）ワールド・フォーカス

世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8 月末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年も世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映作品数 13 作品 動員数 5,570 人

#### （７）「CROSSCUT ASIA #06 ファンタスティック！東南アジア」

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭のコラボレーション・シリーズ第6弾。今年はホラーからロマンスまでの作品を揃え、大変な好評を得た。

上映作品数 10 作品 動員数 3,046 人

#### （８）「JAPAN NOW」

現在の日本映画を支える代表的な監督の作品を選定し、海外に対して今の日本映画が持つ大きな可能性と意欲を発信する事を目的とした部門。代表作9本に加え、日本映画界のレジェンド、大林宣彦監督の特集上映として新作を含む5作品を上映。連日、ゲストによるQ&Aが行われ、大変好評を博した。

上映作品数 14 作品 動員数 2,399 人

#### （９）「日本映画クラシックス」

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。今年は5月に逝去した伝説の大女優・京マチ子の大映時代の代表作3本をデジタル修復版にて上映した。

上映作品数 3 作品 動員数 243 人

#### (10) ユース部門

ユース部門「TIFF ティーンズ」は中学生以上が対象、映画を通してティーンズが一步前に進む原動力を得ることを願い、また、未来の映像作家や映画ファンの創出につながることを目指した。会期中、3本の作品を上映。また、「TIFF ティーンズ映画教室 2019」では、杉田協士監督を講師に迎え、4チーム24名の中学生による夏休み9日間の映画製作教室を行い、完成された作品は東京国際映画祭会期中にワールドプレミアとして上映され、多くの関係者を集め大変好評であった。ユース部門「TIFF チルドレン」では、山崎バニラの活弁大絵巻他1プログラムを実施、大変、意義深い取り組みとなった。

上映作品数 11本 動員数 1,369人

#### (11) ジャパニーズ・アニメーション部門 THE EVOLUTION of JAPANESE ANIMATION/VFX (TIFF プラス)

今年より部門に昇格。「日本アニメマスタース」として、歴史的な3作品を上映。「日本アニメ映画の到達点」として最近作5本を上映。その他、「日本アニメ映画史の変化点」というタイトルで「アニメマスタース」3作品の制作資料等を展示した。更に、マスタークラスとして「アニメ映画史、最重要変化点を語る」を実施。ジャパニーズ・アニメーションの歴史を紐解いた。また、VFXの取り組みとして、ULTRAMAN ARCHIVES「ウルトラQ」4K上映という形で「ウルトラQ」4作品を上映。関連するアリーナイイベントも行なった

上映作品数 12作品 動員数 2,247人

#### (12) STAR CHANNEL MOVIES コレクション

映画レーベル「STAR CHANNEL MOVIES」より心が求める5作品を厳選し、上映。

上映作品数 5作品 動員数 442人

#### (13) シン・ファンタ 復活!?東京国際ファンタスティック映画祭ナイト

東京国際ファンタスティック映画祭復活に向けて、1夜限りのオールナイト上映を開催

上映作品数 3作品 動員数 503人

#### (14) アメリカン航空 ブランデッドショートフィルム/アメリカン航空アワード大学対抗ショートフィルムコンテスト

アメリカン航空と東京国際映画祭が共同で作ったブランデッドショートフィルム「ボトルメール」の披露と、若いクリエイター支援を目的とした、5つの大学の学生たちが作ったショートフィルムのコンテストを実施

上映作品数 6作品 動員数 75人

#### (15) NTT ドコモ特別企画〈TIFF プラス Tech〉第32回東京国際映画祭 Virtual×Real×Tech ライブ～featuring 直感×アルゴリズム♪～

NTT ドコモの5Gの技術を活用した、バーチャルキャラクターと人気タレントによるトークショー、観客参加型の音楽ライブ、バーチャルと映画を融合させた体験型VRステージを同時に楽しむ

る新しいエンターテイメントを六本木ヒルズアリーナにて11月2日・3日の2日間実施

動員数 800人

#### (16) 六本木ヒルズアリーナ野外上映・イベント

その他、六本木ヒルズアリーナでは、アニメやVFX作品の登壇付き上映イベント、GALAスクリーニング作品「カツベン！」のスペシャルイベントを行い、連日、賑わいを見せた。

上映作品数 5作品 動員数 1,355人

#### (17) TIFF マスタークラス、TIFF 特別シンポジウム

今年のマスタークラスは、ジャパニーズ・アニメーション部門の企画「アニメ映画史、最重要変化点を語る」、及び、「アミール・ナデリ フィルムメイキング・ワークショップ」が行われた。また、特別シンポジウムとして、「ヤング・フィルムメイカーズ・フォーラム」「ウーマン・イン・モーション」を行った。いずれも特徴のある取り組みで、大変意義のあるものとなった。

動員数 「アニメ映画史」132人 「アミール・ナデリ」87人 「ヤング・フィルムメイカーズ」56人 「ウーマン・イン・モーション」130人

#### (18) 東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場 屋外上映イベント

東京ミッドタウン日比谷の日比谷ステップ広場に高精細のLEDパネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を行い、また、11月3日にはゴジラ・フェスとも連動し、大きく動員を稼ぎ、大変な好評を得た。

10月28日(月) 日比谷オープニング・イベント「この世界の片隅に」舞台挨拶付き上映

10月29日～11月2日 東京国際映画祭×11月3日はビデオの日屋外上映会2019 9作品を上映

11月3日(日・祝) ゴジラ・フェス2019

11月4日(月) 復刻シネマライブラリーpresents ウェスタン・ムービー特集 3作品を上映

総動員数：33,655人

#### [共催・提携企画]

##### (1) 第16回文化庁映画週間

###### ①令和元年度文化庁映画賞贈賞式

優れた文化記録映画に賞を贈呈すると共に、日本映画を支えてきた功労者を顕彰。

会期：10月28日(月) 場所：グランドハイアット東京

###### ②令和元年度文化庁映画賞受賞記念上映会

文化庁映画賞を受賞した3作品を上映すると共に、各作品の監督を招きQ&Aを行った。

会期：11月2日(土) 場所：神楽座

###### ②シンポジウム

「国際共同製作の今を語る」をテーマに、国際的に活躍する業界人から最新事情を聞いた。

会期：11月4日(月) 場所：六本木アカデミーヒルズ49オーデトリウム

上映作品数 3作品 総動員数 456人



**(2) アメリカ議会図書館映画コレクション** 10月31日～11月10日

アメリカ合衆国最大のアーカイブである議会図書館の貴重なコレクションを 35 ミリフィルムにて上映。

会場：国立映画アーカイブ 上映作品数 14 作品 動員数 3,365 人

**(3) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム** 11月4日(月)

六本木ヒルズアリーナにて、上田慎一郎監督作品『カメラを止めるな!』の上映に続き、上田監督と監督協会理事長の崔洋一監督との対談を行った。 上映作品数 1 作品 動員数 300 名

**(4) みなと上映会** 11月2日(土)

名作クラシック映画の上映、親子向けのキッズムービーの上映を実施した。 上映作品数 2 作品 動員数 216 人

**(5) 特別上映『東京パラリンピック 愛と栄光の祭典』バリアフリー上映** 10月29日(火)

特別上映作品「東京パラリンピック 愛と栄光の祭典」上映時に、日本語、英語、中国語対応の出来る最新字幕表示メガネを入場者全員に配布。聴覚障害者向けだけでなくメガネの活用の可能性を示すことが出来た。 上映作品数 1 作品 動員数 141 人

**(6) 特別提携企画 「PFF アワード 2019」グランプリ受賞作品上映** 10月31日(木)

PFF アワード 2019 グランプリ作品『おばけ』と準グランプリ『雨のやむとき』を上映、および、Q&A を実施。 上映作品数 2 作品 動員数 104 人

**(7) 「SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2019」作品上映** 11月3日(日)

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭 2019 の受賞作品『サクリフェイス』の上映、及び、Q&A を実施。 上映作品数 1 作品 動員数 93 人

**(8) MPA セミナー** 10月30日(水)

映画産業の経済効果と海賊版サイトの報告を行い、国内外の研究者が改善策を討議した。

動員数 116 人 場所：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

**(9) 京都フィルムメーカーズラボ マスターズセッション** 10月30日(水)～11月4日(月)

選抜された国内外の若手映像作家を対象に、TIFF 審査員ほかを迎えて 13 のセミナーを開催。

上映作品数 3 作品 動員数 852 人 場所：京都文化博物館、東映京都撮影所ほか

**(10) 27th キネコ国際映画祭** 11月1日(金)～5日(火)

野外上映やアウトドアイベントの規模拡大に伴い、過去最多の動員を記録した。

場所：109 シネマズ二子玉川ほか

- (11) コリアン・シネマ・ウィーク 2019 10月29日(火)～11月2日(土)  
日本未公開3作品を含む最新の韓国映画5作品を上映、ゲストによるトークショーも実施。  
場所：韓国文化院ハンマダンホールほか
- (12) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2019 秋の映画祭 10月17日(木)～20日(日)  
2019年受賞作品を含む40作品を上映、濱口竜介監督によるセミナー等も開催。  
場所：東京都写真美術館ホール
- (13) 2019 東京・中国映画週間 10月22日(火)～11月1日(金)  
日中映画祭の「ゴールドクレイン賞」も4回目を迎えた。 場所：東京都写真美術館ホール他
- (14) 第16回ラテンビート映画祭 11月7日(木)～12月8日(日)  
本年度はTIFFとのコラボで「ファイアー・ウィル・カム」「戦争のさなかで」を共同上映した。  
場所：新宿バルト9ほか
- (15) 第13回田辺・弁慶映画祭 11月22日(金)～11月24日(日)  
コンペティション作品、招待作品等、計19本を上映。 場所：紀南文化会館
- (16) ポーランド映画祭 2019 11月10日(日)～23日(土)  
クラシック作品や新作を上映。 会場：東京都写真美術館ホール
- (17) 2019 東京台湾未来映画週間 10月19日(土)～20日(日)  
台湾オリジナル作品20本を上映、監督2名がイベントに登場 会場：ワンサードライブ秋葉原
- (18) 2019 新鋭映画週間 10月29日(火)  
世界の映画界の新しい力・若手を対象とした授賞式を開催 会場：49F タワーホール
- (19) MPTE AWARDS 2019 第72回表彰式 10月31日(木)  
映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。  
動員数 165人 場所：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム
- (20) 映文連 国際短編映像祭 映文連アワード 2019 11月25日(月)～11月27日(水)  
受賞29作品を6つのプログラムに分けて上映。監督等を迎えてのトークは盛況であった。  
上映作品数 44作品 動員数 650人 場所：国立新美術館講堂(表彰式)、ユーロライブ(上映会)
- (21) 第41回 PFF (ぴあフィルムフェスティバル) 9月7日(土)～9月21日(土)  
「Gのレコンキスタ」特別先行上映や映画講座等を実施。 場所：国立映画アーカイブ

**(22) SKIP シティ国際D シネマ映画祭 2019**

7月13日(土)～21(日)

今年で16回目。埼玉県川口市で開催。

場所：SKIP シティ映像ホールほか

**(23) サヤマ de シネマ vol.3**

9月21日(土)～22日(日)

第3回の今年は沖田修一監督をゲストに迎え、大盛況のうちに終了。

会場：狭山市市民会館小ホール

**(24) あなたの街でもビデオの日全国上映会**

10月25日(金)～11月27日(水)

日比谷の屋外上映会 2019 の連動企画として、東京国際映画祭開催に合わせて全国16か所での上映会を開催。

会場：シネリーブル梅田ほか

**[顕彰・助成]**

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来 作品賞）。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画スプラッシュ 作品賞、監督賞）。

**[運営]**

**① 自主企画の実施**

本年度は、新規部門も含めた以下の部門（「コンペティション」「アジアの未来」「日本映画スプラッシュ」「特別招待作品」「ワールド・フォーカス」「JAPAN NOW」「TIFF ティーンズ」「TIFF チルドレン」他）を実施した。

**② 上映会場、各種会場**

六本木地区、及び、日比谷地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHO シネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）EX シアター六本木（1スクリーン）

東京国際フォーラムホールC

・その他の会場（提携企画等を上映、実施）：

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場、六本木ヒルズアリーナ、神楽座ほか

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」：オープニングセレモニー・パーティーの会場として使用。

「森タワー」：映画祭事務局、プレスセンター、記者会見場、各種取材部屋、各種セミナー会場、レセプション会場

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：チケットブース、インフォメーションブース等で使用

「ヒルズカフェ」：通常利用「六本木ヒルズ アリーナ」：連日、各種イベントの実施に使用。

### ③ 入場料金

- オープニング／GALA スクリーニング／クロージングセレモニー＋東京グランプリ受賞作品  
一般：2,600円 学生前売・当日：2,100円
- 特別招待作品 一般：1,900円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- 特別招待作品（「アイリッシュマン」） 一般：2,100円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- 特別上映（シネマ歌舞伎「女殺油地獄」）  
一般：2,100円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- 特別上映（「その瞬間、僕は泣きたくなかった」「大林宣彦&恭子の成城物語[完全版]」「帰郷」）  
一般：1,900円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- 特別上映（上記作品以外） 一般：1,400円 学生前売：1,100円 学生当日：500円
- コンペティション、アジアの未来、日本映画スプラッシュ、ワールド・フォーカス、CROSSCUT ASIA  
一般：1,600円 学生前売：1,100円 学生当日：500円
- 日本映画スプラッシュ（「れいわ一揆」） 一般、学生、学生当日：1,900円
- CROSSCUT ASIA（「停止」） 一般：2,000円 学生前売：1,500円 学生当日：1,500円
- JAPAN NOW（「蜜蜂と遠雷」「宮本から君へ」「引っ越し大名！」「サーティセブンセカンズ」「タロウのバカ」「海辺の映画館」） 一般：1,900円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- JAPAN NOW（上記以外の作品） 一般：1,400円 学生前売：1,100円 学生当日：500円
- 日本映画クラシックス 一般：1,400円 学生前売：1,100円 学生当日：500円
- ユース（チルドレン／ティーンズ／映画教室）  
一般：1,500円 学生前売：500円 学生当日：500円
- ジャパニーズ・アニメーション（「天気の子」）  
一般：1,900円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- ジャパニーズ・アニメーション（上記作品以外）  
一般：1,400円 学生前売：1,100円 学生当日：500円
- その他企画上映 一般：1,400円 学生前売：1,100円 学生当日：500円
- シン・ファンタ 一般：3,500円 学生前売・当日：3,500円

### ④会期中のイベント

#### 【六本木ヒルズ アリーナイベント】

- オープニング・イベント：10月28日（月）  
多数の作品ゲスト等がレッドカーペットを歩行し、特設ステージに登壇して挨拶。
- デイリーイベント10月29日（火）～11月4日（月）
  - ・新作「魔女見習いをさがして」スペシャルトーク&旧作3作上映会
  - ・「スペース・スクワッド ギャバン VS デカレンジャー」「宇宙戦隊キュウレンジャーVS スペース・スクワッド」特別上映会
  - ・GALAスクリーニング「カツベン！」アリーナイベント
  - ・NTTドコモ特別企画〈TIFF プラス Tech〉第32回東京国際映画祭 Virtual×Real×Tech ライブ～featuring 直感×アルゴリズム♪～
  - ・アリーナイベント：ウルトラ怪獣の誕生「ウルトラQ」から「ウルトラマン」へ

- ・日本映画監督協会新人賞 上映とトーク

### 【大屋根プラザ】

映画祭期間中、一般来場者の寛ぎスペースとして演出。中央にテーブルを配し、防寒対策でストーブを設置。インフォメーションブース、チケットブース、キッチンカーを設置、サイン会等も活発に行われた。アメリカン航空による乗機体験コーナーも大変好評であった。また、10月29日には、『ホリエモン×東京国際映画祭 SAKE&GOURMET 祭スペシャルトークライブ 堀江貴文×MIYAVI「世界に誇る日本酒」』を開催

#### ⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

#### ⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、公式バッグを販売した。

#### ⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。値段設定や特典（オープニングレッドカーペット入場券をうまく活用）の工夫をすることで前年以上の参加者を得た。

### 【広報活動】

#### 1. メディア登録者数

国内メディア：1,312名 海外メディア 818名

パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施

#### 2. 国内宣伝パブリシティ

露出数：13,440（12月6日時点）

TV 媒体広告換算値：19億 6510万 4678円

WEB 媒体広告換算値：90億 3006万 1506円

テレビをメインの展開媒体として注力した結果、番組数は減であったが放送時間が昨年比2倍以上となり広告換算値も大幅増となった。その他、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への特集掲載、WEBポータルサイトへの特集掲載など。

#### 3. 海外宣伝パブリシティ 露出数：6,976

チャン・ツイー効果やトレードマガジン・通信社の取り込み施策で露出は増加。一方で海外媒体にひきのある世界的に著名なゲストが少なく、宣伝的に大きなインパクトがなかった

#### 4. 記者会見

○ラインナップ発表会見 2019年9月26日 六本木アカデミーヒルズ 49階 タワーホール

○会期中のコンペティション部門記者会見 TOHO シネマズ劇場内

○受賞者記者会見 2019年11月5日 国際フォーラム ホールC 1Fロビー

5. 国内宣伝広告 . . . . . スターチャンネルミニ番組・スポット・SNS 生配信ほか、InterFM897 ミニ番組・スポット、J-wave 各種番組出演・告知、Yahoo!映画/GYAO 特設サイト・キャンペーン、LINE LIVE 生放送、Filmarks 広告、Movie Walker 特集ページ・バナー広告・オリジナル動画企画、SNS 広告

6. 海外宣伝広告 . . . The Wall Street Journal、The Japan Times/ The New York Times Variety、Screen International、The Hollywood Reporter、Chinese Film Market 他

7. 海外プレス招聘 . . . 28カ国・地域より49名のジャーナリストを招聘。

#### 8. 宣材物

予告編 . . . . . 2019年9月27日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル . . . 昨年一昨年に続き、蜷川実花氏の写真を今年も採用

紙媒体 . . . . . プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

#### 9. 公式WEB、SNSの展開

SNS 展開にはさらに力を入れ、会期前からYouTubeでの配信番組「TIFF Studio」でも情報発信。媒体の特性に合わせて戦略的に国内外へと発信。

<各SNSフォロワー数>

Twitter : 47,707 / Twitter (ENG) : 548 Facebook : 21,283

LINE : 27,200 Instagram : 6,677 YouTube : 6,740

10. Cyber TIFF . . . 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式WEB及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFFの最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。

(森ビル・六本木ヒルズおよびEXシアターでの広報活動)

会期前の10月25日(金)より最終日の11月5日(火)まで、六本木ヒルズ内の大型広告スペースにおいて、オープニングクロージング作品の大型ビジュアル、映画祭ビジュアルやロゴ、また映画祭と各作品のポスター等を掲出。EXシアターも同様の装飾で両会場を華やかに盛り上げた。

- |             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| ① 地下鉄通路     | 地下鉄コンコースコルトン、地下鉄コンコースシート       |
| ② メトロハット    | 内周バナー、エスカレーター下コルトン、メトロハット・ビジョン |
| ③ 66 プラザ    | 水景                             |
| ④ 大屋根プラザ    | 吊り下げバナー、台形柱シート、                |
| ⑤ TOHO シネマズ | エントランスバナー                      |
| ⑥ ヒルズカフェ    | カフェ前台形柱シート                     |
| ⑦ アリーナ      | ステージ、フォトスポット、レッドカーペット          |
| ⑧ けやき坂      | 歩道バナー                          |
| ⑨ EX シアター   | 1F バナー                         |

(日比谷地区での広報活動)

ミッドタウン日比谷での屋外大型 LED ビジョンの裏面を華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場の賑わいを演出した。同様のビジュアルをストリートバナーでも展開した。

(東京都交通媒体での広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10月2日(水)から11月5日(火)までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 145 枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 3,100 枚
- ③ 都営地下鉄全駅 チラシ設置 10,500 枚
- ④ 都バス窓上広告掲出 (都営地下鉄中吊り枚数に含む)
- ⑤ 都バス全車内 チラシ設置 14,710 枚
- ⑥ 東京都媒体での告知記事掲載・TOKYO MINT00 (9/11号)、ふれあいの窓 (10月号)、沿線ガイドぴっくあっぷ (10月号)

#### [東京国際映画祭地区委員会の活動]

「みなと委員会」・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、東京地下鉄株式会社、東京商工会議所、森ビル株式会社、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。第32回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

#### ○プレイベント上映会

区民を対象とした第31回受賞作品等の上映会を開催

2019年9月28日(土) / 9月29日(日)

赤坂区民センター区民ホール (入場者数 1202名)

- みなと上映会 区民を対象にしたクラシック作品、キッズドラマの上映会を開催

2019年11月2日(土)

TOHO シネマズ六本木ヒルズ (入場者数 216名)

- 観客賞 観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞(賞金1万米ドル)

贈賞 2019年11月5日(火) アワード・セレモニー内

受賞作品上映会 2019年11月5日(火)

TOHO シネマズ六本木ヒルズ (入場者数 278名)

受賞作品『動物だけが知っている』

登壇者 ドウニ・メノーシェ (俳優)

- 街頭フラッグの掲出

けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、材木町商店会にて合計230枚

2019年10月19日(土)~11月5日(火)

映画祭のメインビジュアルバナーのフラッグをリユースし

トートバッグを制作。六本木ヒルズのアートショップや港区役所で販売。

○ みなとクリーンアップ

六本木ヒルズ会場、六本木駅、麻布十番駅周辺と会場までの道路沿いの清掃。10/18(金)午後17時時点において、10/19(土)午前10時 天気予報が降水確率90%になったため、みなと委員会、六本木自治会、Kiss ポート財団で協議し、中止判断となる。

○ みなと区民まつり

増上寺エリアのテントにおいて東京国際映画祭のPR活動。

2019年10月12日(土)10月13日(日)に開催予定だった「みなと区民まつり」は大型台風の影響により中止となる。

○ 告知記事掲載

港区のKiss ポート誌8月号にプレイベント募集、9月号にみなとクリーンアップ募集記事、10月号にみなと上映会、観客賞募集記事を掲載し、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計15万枚を配布した。

## 2. TIFFCOM 開催事業

### 「Japan Content Showcase/TIFFCOM」の製作運営

#### ■ TIFFCOM 2019 開催概要

- ① 主催： 経済産業省／特定非営利活動法人映画産業振興機構／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第32回東京国際映画祭
- ③ 同時開催： 第16回東京国際ミュージックマーケット (16<sup>th</sup> TIMM) ※  
東京国際アニメ祭 2019 秋 (TIAF 2019 Autumn)
- ④ 日程： 令和元年10月22日(火)～10月24日(木)
- ⑤ 会場： サンシャインシティ コンベンションセンター他  
※TIMMは渋谷エクセルホテル東急を主会場に開催(10/28～30)

#### ■ TIFFCOM 2019 成果報告

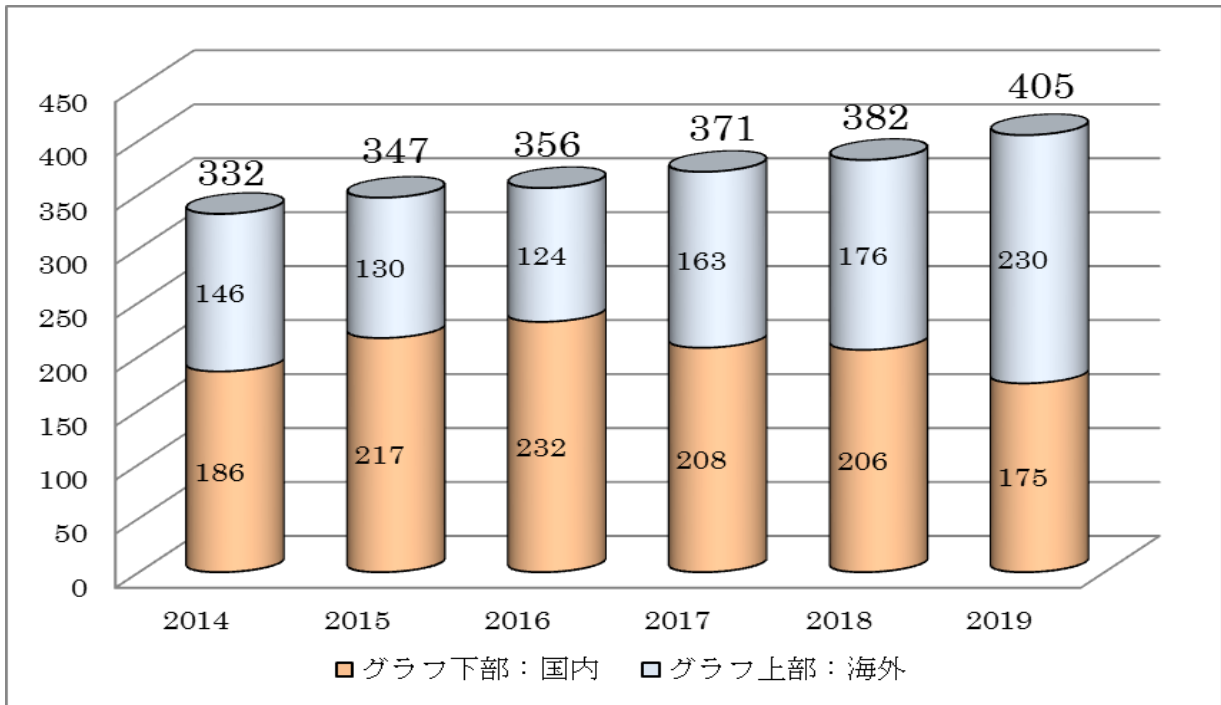
TIFFCOM2019は、昨年に引き続き、音楽の国際マーケットであるTIMM(第16回国際ミュージックマーケット)、アニメ企業の出展によるTIAF(東京国際アニメ祭2019秋)、とともに「Japan Content Showcase」(JCS)のバナーの下、多様なコンテンツが一堂に会する合同マーケットとして開催された。

JCS/TIFFCOMとして過去最高となる405の出展団体が参加し、登録バイヤー数は昨年比▲28名で948人と微減するが、商談件数は8335件と昨年対比102%、過去10年間順調に増加している。2019年度はパビリオンとして、中国が2つとイタリアが初出展となった。



【出展者の状況】

2019年度 出展団体数【 海外：230／国内：175 合計：405 】 過去最高を記録。



国・地域別出展団体数

<b>アジア</b>	<b>194</b>	台湾	35	オランダ	1
カンボジア	16	タイ	8	ロシア	2
中国	89	<b>日本</b>	<b>175</b>	イギリス	1
香港	5	<b>ヨーロッパ</b>	<b>27</b>	<b>北米</b>	<b>7</b>
インド	1	ブルガリア	1	カナダ	1
インドネシア	2	エストニア	2	アメリカ	6
韓国	34	フィンランド	1	<b>中南米</b>	<b>1</b>
マレーシア	1	フランス	3	メキシコ	1
ミャンマー	1	ドイツ	1	<b>中近東</b>	<b>1</b>
フィリピン	1	イタリア	14	サウジアラビア	1
シンガポール	1	ラトビア	1		

※斜体のブルガリア、フィンランド、サウジアラビアが初出展

アジア 前年対比 129% (前年 150)、日本 前年対比 85% (前年 206)、

ヨーロッパ 前年対比 123% (前年 22)、北米 前年対比 233% (前年 3)、

南米 前年対比 100% (前年 1)、中近東 前年は出展なし

[登録バイヤーの状況]

■ 2019年度 : 945人 ※ 2018年度より28人減少

国・地域別来場バイヤー数

<b>アジア</b>	<b>495</b>	<b>ヨーロッパ</b>	<b>106</b>	カナダ	8
ブルネイ	1	ベルギー	4	アメリカ	67
カンボジア	8	<i>ブルガリア</i>	<i>1</i>	<b>中南米</b>	<b>23</b>
中国	104	エストニア	3	アルゼンチン	1
香港	68	フィンランド	1	ブラジル	4
インド	4	フランス	20	チリ	2
インドネシア	15	ドイツ	24	メキシコ	15
韓国	97	ハンガリー	1	ペルー	1
ラオス	1	<i>アイルランド</i>	<i>1</i>	<b>オセアニア</b>	<b>18</b>
マカオ	8	イタリア	7	オーストラリア	14
マレーシア	14	<i>リトアニア</i>	<i>2</i>	ニュージーランド	4
ミャンマー	3	オランダ	1	<b>中近東</b>	<b>6</b>
ネパール	2	ノルウェー	1	イラン	1
フィリピン	13	ロシア	8	クウェート	1
シンガポール	17	スペイン	11	カタール	<i>1</i>
台湾	91	スウェーデン	4	サウジアラビア	1
タイ	31	スイス	1	アラブ首長国連邦	2
ベトナム	18	イギリス	16	<b>アフリカ</b>	<b>1</b>
<b>日本</b>	<b>224</b>	<b>北米</b>	<b>75</b>	南アフリカ	1

※斜体のブルガリア、アイルランド、リトアニア、カタールが初登録

アジア 前年対比 91% (前年 545)、日本 前年対比 86% (前年 259)

ヨーロッパ 前年対比 149% (前年 71)、北米 96% (前年 78)、南米 256% (前年 9)

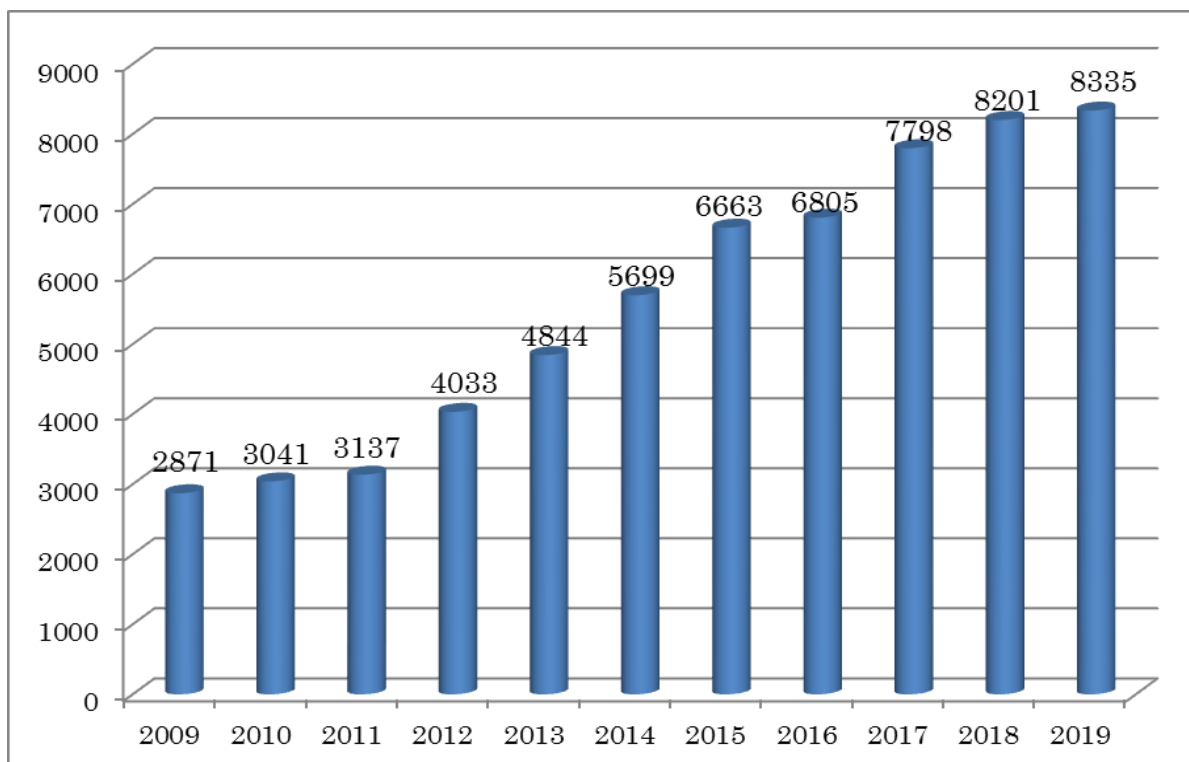
オセアニア 前年対比 450% (前年 4)、中近東 60% (前年 10)、アフリカは前年なし

2019年の登録バイヤー数は全体的に見ると微減。日本およびアジアのバイヤー登録数が減少し、ヨーロッパ・南米・オセアニアのバイヤー数が増加。日本の登録者数減少は、開催日決定後、初日が祝日になったことが影響していると考えられる。またアジアのうち、韓国の登録バイヤー数減は登録時の社会情勢が影響していると思われる。ただし、購入権限を持つバイヤーがしっかり来場することで精選されたメンバーでのマーケットとなっており、商談件数・総契約金額も増加、マーケットとしての価値は高まっていると考えられる。

[商談結果の状況]

■ 2019年度 : 総契約金額 : \$77,327,214

商談件数 : 8,335件



商談件数は着実に増えており、総契約金額も昨年から\$13,000,000以上増加。マーケットとしての規模は着実に大きくなっている。

[JCS セミナーの状況]

全 12 セミナーを開催。

主な TIFFCOM 関連セミナー

「日中映画共同製作協定認定作品への出資事業と青島撮影スタジオ複合施設のご紹介」

「中国映画・テレビ業界における国際交流に関して」

「MPA /DHU /TIFFCOM マスタークラスセミナー&ピッチング・コンテスト」

「FOCUS ON ITALY」

### 3. 国際振興支援事業

#### 【 国際展開支援 】

#### (1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

#### ■ 平成 31（令和元）年度支援実績

##### 1. 支援内容と支援件数

(コード A) 指定映画祭等への出品・参加に対する支援（三大映画祭以外）

- ・外国語字幕制作および映画製作者の海外渡航への支援 申請件数 16 採択件数 15

(コード B) 三大映画祭長編メインコンペティション部門への支援

- ・カンヌ、ベネチア、ベルリン映画祭の長編コンペ部門参加への支援 採択件数 0

(コード C) 自主制作映画の海外映画祭等参加への支援

- ・外国語字幕制作および映画製作者の海外渡航への支援 申請件数 13 採択件数 13

##### 2. 選考

(A) 前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。

- ・前期（4月～7月） 申請件数 14 採択件数 13
- ・中期（8月～11月） 申請件数 7 採択件数 7
- ・後期（12月～3月） 申請件数 8 採択件数 8

(B) 選考委員会のメンバーは以下の5名に委嘱した。

- ・坂野 ゆか（川喜多記念映画文化財団）・新藤 次郎（日本映画製作者協会代表理事）
- ・華頂 尚隆（日本映画製作者連盟）・石坂 健治（日本映画大学教授）
- ・恩田 泰子（読売新聞社文化部記者）

#### (2) 日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

#### ■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者に提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

##### 出展した映画祭

- (A) カンヌ国際映画祭マーケット（開催日程 令和元年5月14日～23日）公式出品作品 4本  
日本貿易振興機構（JETRO）との共同ブースを開催。 ブース参加日本企業 15社

参加日本企業および彼らの新作日本映画を紹介する小冊子を作成・ブースで配布。  
カンヌ国際映画祭 Village International（開催日程 令和元年5月14日～25日）  
パビリオン出展を行い、日本の映画界と海外が交流できる拠点として活用した。

(B) アヌシー国際映画祭マーケット（開催日程令和元年6月11日～14日）

公式出品作品 24本ブース参加日本企業 3社

(C) ベルリン国際映画祭マーケット（開催日程 令和2年2月20日～27日）

公式出品作品 8本ブース参加日本企業 13社

(D) 香港国際映画祭マーケット：参加予定であったがコロナ禍により延期になり実施を見送る。

### (3) ヴェネチア国際映画祭 日本映画特集「Focus on Japan」(J-L0D 補助事業)

日本とイタリア間の映画・映像分野における関係強化・共同製作協定締結に向けて、ヴェネチア国際映画祭においてプレス・業界関係者向けの日本映画特集上映「Focus on Japan」を実施した。また関連イベントとしてイタリア・日本に加え、アメリカ・中国の業界関係者との交流イベントを実施した。

#### 特集上映

- ・ 主催：ANICA（イタリア映画・マルチメディア産業協会）
- ・ 共催：公益財団法人ユニジャパン
- ・ 協力：一般社団法人日本映画製作者連盟／独立行政法人国際交流基金
- ・ 日程：令和元年9月2日～9月3日
- ・ 上映作品：「カツベン！」（周防正行監督）  
「蜜蜂と遠雷」（石川慶監督）  
「人間失格 太宰治と3人の女たち」（蜷川実花監督）  
「楽園」（瀬々敬久監督）
- ・ 参加ゲスト：「カツベン！」天野和人（プロデューサー）  
「人間失格 太宰治と3人の女たち」蜷川実花（監督）／  
池田史嗣（プロデューサー）  
「楽園」村上虹郎（出演者）／二宮直彦（プロデューサー）

#### 交流イベント

「Focus on Japan」の関連イベントとして、イタリア・日本に加え、米国・中国の4か国をフィーチャーした交流会と二部構成のセミナーを開催した。交流会では上記4か国の関係者が集いネットワークを行った。セミナーでは、第一部でオーディオビジュアル分野が今後どのように成長できるかをテーマにイタリア文化財・文化活動省、ANICA、アメリカ映画協会の代表者がそれぞれ登壇。続いて、ヨーロッパでのライセンスの現状について、IFTA、NETFLIX、RAI シネマ、CHILI のそれぞれ重役が登壇。つづく第二部ではイタリア、中国、日本、米国のグローバル化する製作及び配給についてのセミナーとなった。日本からはユニジャパンの椎名保副理事長がキー

ノートスピーチを、株式会社 KADOKAWA の小寺剛雄国際部部長がケーススタディーのためそれぞれ登壇した。

「Italy: Europe' s Audiovisual Bridge Between USA, China and Japan」交流会

実施日時：2019年8月31日19時30分～22時

対象国：イタリア、アメリカ、中国、日本の関係者

会場：Labia Palace

主催：Direzione Generale CINEMA / ANICA

協力：新華網 Rai ヴェネト支社 / SIAE Dalla Parte Di Chi Crea / MPA (Motion Picture Association) // *Movie View* / 中国电影合作制片公司 / ユニジャパン / 中国电影合作制片公司

「Italy: Europe' s Audiovisual Bridge between USA, China and Japan」セミナー

実施日時：2019年9月1日 10時30分～12時30分／14時30分～16時30分

会場：ヴェネチア国際映画祭公式会場 Sala degli Stucchi

主催：Direzione Generale CINEMA / ANICA / SIAE Dalla Parte Di Chi Crea

#### (4) 国際共同製作支援（経済産業省の委託事業）

##### ■ 国際共同製作認定事業

I. 国際共同製作の認定業務及び日中協定における取組機関としての事務業務

1. 応募要項、応募様式の作成

① 検討委員会の実施

検討委員会では識者、関連団体を交えて、国際共同製作認定制度の内容や認定基準について協議し、修正を提起・承認した。

・ 日時：令和元年5月10日（金） 10：00～12：30

・ 場所：公益財団法人ユニジャパン 15F 会議室

・ 参加者：有識者以下6名

日本アカデミー賞協会 事務局長／富山省吾（座長）  
株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー／井関惺  
有限会社ユーロスペース 代表取締役／堀越謙三  
NPO 法人映像産業振興機構 事務局次長／槇田寿文  
株式会社手塚プロダクション 取締役／清水義裕  
株式会社ロボット プロデューサー／小出真佐樹

・ 参加省庁：経済産業省、文化庁、外務省

・ 事務局：公益財団法人ユニジャパン

② 応募要項・申請書類一式作成

上記検討委員会の協議を受けて、国際共同製作認定の応募要項・申請書式を更新

2. 申請予定者向けの説明会開催概要

- ・ 日時：令和元年9月27日（金） 14：00～16：00
- ・ 会場：銀座 Uni-ku 貸会議室 G-301 大会議室（3階）
- ・ 参加者：81人

3. 募集活動

上記説明会に加え、ユニジャパン公式サイト、SNS、ニュースレターなどによって認定制度の告知啓蒙を行った。

4. 認定作業

① 認定委員会開催

- ・ 日時：令和元年12月13日（金） 10：00～12：30
- ・ 会場：公益財団法人ユニジャパン会議室
- ・ 参加委員：有識者4名
- ・ 参加省庁：経済産業省、文化庁、外務省

② 国際共同製作認定申請

申請19件、更新企画1件、計20件 認定15件 文化庁採択7件

番号	区分	企画名	申請団体名	共同製作国（地域）
1	アニメ	犬王	アスミック・エース（株）	中国
2	劇映画	コットンテイル	（株）オフィス・シロウズ	イギリス
3	劇映画	The Moon Caravan	（株）トランスフォーマー	ルーマニア
4	劇映画	日本カザフスタン国交樹立 30周年記念作品 AXIKO 阿彦哲郎物語・ 第二の太陽	（株）蒼龍舎	カザフスタン、 ロシア
5	劇映画	ハチとパルマの物語	（株）平成プロジェクト	ロシア
6	劇映画	日出ずる国のヴァンパイア （仮）	（株）CHIPANG	フランス
7	劇映画	わたしたちの修業時代	G&I エンタテインメント （株）	フランス、 ベルギー

## 5. 中国との調整

本年度も日中映画共同製作協定の取扱期間として委任を受けた。日中映画共同製作認定応募要項を策定して申請の受付を行い、上記説明会でも説明を行った。認定申請の書類審査を継続して行ったが、年度中に該当する完成作品はなかった。

### 【 情報発信 】

#### (1) 海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database (JFDB) の運営 (国際交流基金との共同事業)

主に 21 世紀の日本映画に関して、日本で唯一の日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。平成 31 (令和元) 年には日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、約 250 本を新規掲載し、JFDB アーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で 5,962 作品のデータを収めている。海外販売をサポートするため映画マーケットでのセールス作品に特化したページ”Market Look” や、年間の特筆すべきアニメ映画を特集したページも開設した。

#### (2) 海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布 (文化庁の委託事業)

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、平成 31 (令和元) 年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

#### ■ Japanese Film 2020 の概要

- ① 配布数： 3,000 部
- ② 配布先： カンヌ、アヌシー、ベネチア、TIFFCOM (東京) の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品： 選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計： 一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より協力を得て、各種統計情報を掲載

#### (3) 第 16 回 文化庁映画週間の実施 (文化庁の委託事業)

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品 (文化記録映画部門) 及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者 (映画功労部門) に対する顕彰を行った。また、日本映画の製作者と観客をつなげるための活動を促進するべく、国内外の現状と展望を広く紹介することをテーマにした全国映画会議を実施した。



## 【令和元年度 文化庁映画賞】

### ●文化庁映画賞贈呈式

- ・会期：令和元年10月28日（月）18時00分～
- ・会場：グランドハイアット東京「レジデンス バジル」
- ・主催：文化庁

### 令和元年度 文化庁映画賞 【文化記録映画部門】 受賞作

[文化記録映画大賞]『ぼけますから、よろしくお願いします。』

監督：信友直子

製作：株式会社ネツゲン、株式会社フジテレビジョン、関西テレビ放送株式会社

[文化記録映画優秀賞]『沖縄スパイ戦史』

監督・ナレーション：三上智恵、大矢英代

製作：「沖縄スパイ戦史」製作委員会

[文化記録映画優秀賞]『福島は語る』

監督：土井敏邦

製作：土井敏邦

### 令和元年度 文化庁映画賞 【映画功労部門】 受賞者

浅香時夫（科学映画：生物試料作製・脚本・演出）

牛場賢二（映画証明）

倉橋静男（音響効果）

佐々木史朗（映画プロデューサー）

林 淳一郎（撮影監督）

日野重朗（美術装飾・造園）

渡辺宙明（映画音楽）

### 令和元年度 文化庁映画賞 選考委員

[文化記録映画部門]

岡田秀則（国立映画アーカイブ主任研究員）

栗田香穂（公益財団法人ポラロ伝統文化振興財団 学芸員）

塚田芳夫（公益財団法人映像文化製作者連盟 会長）

原田健一（新潟大学人文社会科学系人文学部 教授）

村山英世（一般社団法人記録映画保存センター 事務局長）

山田顕喜（日本大学芸術学部・大学院芸術学研究科非常勤講師）

## [映画功労部門]

- 芦澤明子（映画カメラマン）
- 新藤次郎（株式会社近代映画協会代表取締役）
- 中嶋清美（公益社団法人映像文化製作者連盟理事・事務局長）
- 野村正昭（映画評論家）
- 氷川竜介（明治大学院特任教授 アニメ・特撮研究科）

## ●文化庁映画賞受賞記念上映会

- ・会期：令和元年 11 月 2 日（土）
- 10 時 00 分～『沖縄スパイ戦史』上映  
Q&A ゲスト：三上智恵（監督）司会：西村隆（一般社団法人 PFF）
- 13 時 00 分～『ぼけますから、よろしくお願いします。』上映  
Q&A ゲスト：濱 潤（プロデューサー）司会：西村隆（一般社団法人 PFF）
- 16 時 00 分～『福島は語る』上映  
Q&A ゲスト：土井敏邦（監督）司会：西村隆（一般社団法人 PFF）
- ・会場：神楽座
- ・主催：文化庁

## ●シンポジウム「国際共同製作の今を語る」

- ・会期：令和元年 11 月 4 日（月）17 時 00 分～
- ・会場：六本木アカデミーヒルズ 49 タワーホール
- ・主催：文化庁
- ・共催：公益財団法人ユニジャパン

## ■『日中合作映画の取り組み』

[ゲスト] 苗 暁天（プロデューサー、中国電影合作制片公司 顧問）

## ■『フランスにおける国際共同製作の現状と展望』

[ゲスト] Ronan Girre（作曲家、脚本家、プロデューサー）

## ■事例紹介・総括・質疑応答

[登壇者] 苗暁天、ロナン・ジール、深田晃司（映画監督）、市山尚三（プロデューサー）

企画協力：NPO 法人独立映画鍋

## 【 国際交流 】

- (1) 平成 31 年度 ASEAN 文化交流・協力事業（アニメーション・映画分野）の実施  
(文化庁の委託事業)

成長著しく、映画の発展途上の段階と言える ASEAN 諸国に、日本が強みを持つ映画とアニメ

ーション分野の専門人材を派遣し、現地において実践的ワークショップを行うことにより、現地の若者たちへ知識や情報を伝え、技術においてもスキルアップを図る。また、日本の制作者達とのコミュニケーションを通して、相互の文化理解を深め、国際的な人材育成促進の一翼を担う。  
当該年度における業務実施内容

### 1) デジタル映画制作ワークショップ

**実施地** : クアラルンプール (マレーシア)

**実施時期** : 令和元年 11 月 11 日～11 月 16 日 (6 日間)

**主たる連携教育機関** : マルチメディア大学 (MMU) 、CILECT 加盟校

**内容** : 映画撮影照明 (美術)、編集のワークショップ、ロケーションリサーチ

第一線で活躍する日本人映画技術者である撮影監督、美術監督、編集技師を講師チームとして現地へ派遣。マレーシアのマルチメディア大学 (MMU) を拠点とし、撮影照明ワークショップ、編集の実習及びマスタークラスを実施。今年度は ASEAN 諸国の 7 カ国から派遣され計 18 名が参加した。

#### 【デジタル映画制作ワークショップ スケジュール】

##### 1 日目 : ガイダンスとマスタークラス

午前 / ワークショップ開会式 (FINAS チェアマン、MMU 副学長のスピーチ、WS ガイダンス等)

午後 / 撮影照明マスタークラス

##### 2-3 日目 : 撮影照明ワークショップ

終日 / 撮影照明、美術講師によるワークショップ

3 日目午後 / 講師による講評会 (撮影した映像を視聴、撮影照明技術の解説)

##### 4 日目 : ロケーションリサーチ / マラッカ

終日 / 映画ロケ地での撮影ワークショップ

撮影WSで使用した脚本に基づいたシーンをコンペティション形式で個々に撮影し、後に、撮影照明講師による講評及び受賞者発表。

##### 5-6 日目 : 編集ワークショップ

5 日終日 / 実践的編集マスタークラス

6 日午前 / 講義

午後 / ワークショップ全体の総括、ロケーションリサーチの作品

講師 : 柳島克己 [撮影監督 / 東京藝術大学大学院 名誉教授]

浦田秀穂 [撮影監督 / LASALLE College of the Arts 教授]

磯見俊裕 [美術監督 / 東京藝術大学大学院映像研究科 教授]

鈴木真一 [編集技師]

藤本賢一 [録音技師] \* 都合によりワークショップ初日に緊急帰国された。

現地コーディネーター : 日下健太郎 [OLM Asia SDN BHD]

参加教育機関 : 計 18 名

Mahakarya Institute of the Arts Asia (ブルネイ) 2 名

Jakarta Institute of Arts (インドネシア) 2 名

Multi Media university (マレーシア) 5 名

University of the Philippines Film Institute (フィリピン) 2 名

Lasalle College of the Arts (シンガポール) 3名  
Silpakorn University (タイ) 2名  
The University of Theatre-Cinema HCMC (ベトナム) 2名

## 2) アニメーションブートキャンプ 2019 ASEAN

**実施地** : ナコンパトム、バンコク (タイ)

**実施時期** : 令和元年 11 月 29 日～12 月 1 日 (3 日間)

\* 11 月 28 日、事前オリエンテーション実施

**主たる連携教育機関** : シラパコーン大学

**内容** : アニメーター育成プログラム (アニメーションブートキャンプ)

日本で活躍するプロの現役アニメーター3人をタイへ派遣し、現地の若者たちへアニメーション表現の基礎を教える実践的な内容の作画ワークショップ。これは、2D・3Dを問わず「自己発展・自己開発できる人材の育成」を目的に掲げ、自分たちの身体を使って「観察すること」や「感じること」、さらに「他者に伝わる表現」を追求することを重視した、基礎的かつ本質的なアニメーション教育プログラムを実施した。タイのシラパコーン大学 (ナコンパトム・キャンパス) を拠点とし、計 31 名の学生が参加した。

### 【アニメーションブートキャンプ スケジュール】

#### 1 日目 : ブートキャンプ (ワークショップ)

午前 : プレ実習 (練習課題)

午後 : 講義 (板津)、本実習 (作画作業)

#### 2 日目 : ブートキャンプ (ワークショップ)

本実習 (作画作業)

#### 3 日目 : ブートキャンプ (ワークショップ)

午前 : 仕上げ作業

午後 : 上映会「ルパン三世 死の翼アルバトロス」(統括ディレクター竹内氏が制作進行として携わった作品。)

講評、閉会式

#### 4 日目 : 反省会 / バンコク・キャンパス

午前 : ワークショップの総括及び反省会を実施

午後 : シラパコーン大学バンコク・キャンパス視察 (修繕工事が終了。次回の会場候補)

講師 : 板津匡覧 [アニメーター、監督]

大久保徹 [キャラクターデザイン、作画監督 / 株式会社プロダクション・アイジー]

高橋 賢 [アニメーター、アクションディレクター、アニメーション監督]

現地プロジェクト・プロデューサー兼コーディネーター :

Chanisa Changadvech (Chair of Visual Communication Design dept, Faculty of Decorative Art)

参加教育機関 : 計 31 名 (タイ参加者 25 名 + 藝大 6 名)

Silpakorn University -Visual Communication Design Department, Faculty of Decorative Arts 12 名

ICT (Information Communication Technology) 6 名

King Mongkut' s University of Technology Thonburi -Media Arts Department 4名  
Kantana Institute-Animation Department 3名  
東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻 6名

## (2) 令和元年度アジアにおける日本映画特集上映事業の実施（文化庁の委託事業）

日本の文化や社会を映し出した日本映画について特集上映を通じて広報することにより、日本文化への理解や親しみの深化を図るとともに、日本映画のアジア諸国での上映機会を増加し、もって我が国映画の発展に資する。

2020年2月にベトナムホーチミン市で開催を予定していたが、コロナ禍により次年度に延期して実施予定。

### 【人材育成】

#### 「第41回PFF」の共催（川喜多記念映画文化財団の補助事業）

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第41回ぴあフィルムフェスティバル（PFF）」に共同主催として参画した。

#### ■開催概要

- ・会期：2019年9月7日（土）～21日（土）
- ・会場：国立映画アーカイブ
- ・主催：一般社団法人PFF、独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ、  
公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン

#### ■最終審査員

- ・斎藤 工（俳優・映画監督）・白石和彌（映画監督）・西川朝子（映画プロデューサー）
- ・野村佐紀子（写真家）・山下敦弘（映画監督）

#### ■受賞結果

- |                    |                |           |
|--------------------|----------------|-----------|
| ・グランプリ             | 『おばけ』          | 監督：中尾広道   |
| ・準グランプリ            | 『雨のやむとき』       | 監督：山口優衣   |
| ・審査員特別賞            | 『きえてたまるか』      | 監督：清水啓吾   |
|                    | 『くじらの湯』        | 監督：キヤマミズキ |
|                    | 『ビューティフル、グッバイ』 | 監督：今村瑛一   |
| ・エンタテインメント賞（ホリプロ賞） | 『スーパーミキンコリニスタ』 | 監督：草場尚也   |
| ・ジュエストーン賞（日活賞）     | 『スーパーミキンコリニスタ』 | 監督：草場尚也   |
| ・映画ファン賞（ぴあ映画生活賞）   | 『東京少女』         | 監督：橋本根大   |
| ・観客賞               | 『OLD DAYS』     | 監督：末松暢茂   |
| ・ひかりTV賞            | 『アボカドの固さ』      | 監督：城 真也   |

■東京国際映画祭での提携企画

- ・ PFF アワード 2019 受賞作品上映

上記グランプリ、準グランプリ作品を上映、監督・出演者が観客との質疑応答に参加した。また、監督・出演者をレッドカーペットやオープニングパーティーに招待し、海外映画祭関係者やメディア関係者との交流を促進した。